

第8回教育委員会臨時会議事要録

詳細—教育総務部教育総務課 電話03-3981-1141

附属機関又は 会議体の名称	教育委員会臨時会	
事務局（担当課）	教育総務部教育総務課	
開催日時	平成26年7月21日 午前9時00分	
開催場所	教育センター	
出席者	委員	渡邊 靖彦（委員長）、菅谷 眞（委員長職務代理者）、千馬 英雄、嶋田 由美、三田 一則（教育長）
	その他	教育総務部長、教育総務課長、学校運営課長、学校施設課長、教育指導課 長、教育センター所長、統括指導主事、指導主事
	事務局	教育総務課庶務係長、教育総務課庶務係主事
公開の可否	公開 傍聴人 12人	
非公開・一部公開 の場合は、その理 由		
会議次第	1 第31号議案 豊島区立小学校教科用図書採択について（審議）	

渡邊委員長)

ただいまから第8回教育委員会臨時会を始めます。

本日の署名委員は、菅谷委員と千馬委員にお願いします。なお、本日は傍聴の申し込みが12名いらっしゃいますが、傍聴をお認めしてよろしいでしょうか。

(委員全員了承)

渡邊委員長)

異議なしということで、傍聴をお認めいたします。

<傍聴者入場>

渡邊委員長)

事務局より傍聴者の皆様へ注意事項の説明をお願いします。

<教育指導課長 注意事項説明>

(1) 議案第31号 豊島区立学校教科用図書採択について (審議)

渡邊委員長)

それでは、ただいまから平成27年度豊島区立小学校使用教科書の審議を行います。

配付資料の確認を事務局にお願いいたします。

教育総務課長)

本日の資料ですが、資料の1から資料の5まで、5点ございます。

まず、資料の1でございますが、平成27年度用小学校の教科書選定資料、算数でございます。資料の2が同じく家庭でございます。資料の3が同じく理科でございます。資料の4が同じく体育でございます。最後、資料の5が同じく図画工作でございます。

以上、資料の1から資料の5まで、配付漏れ等はございませんでしょうか。

(委員全員了承)

渡邊委員長)

ありがとうございます。

次に、教育総務部長より本日の審議予定についての説明をお願いいたします。

総務部長)

前回に引き続き小学校教科用図書の採択をお願いします。

本日は、午前中に算数、家庭、理科、午後に体育、図画工作の5教科についてご審議をお願いいたします。よろしく申し上げます。

渡邊委員長)

それでは、ただいまから小学校教科用図書の審議に入ります。

教科書の審議の方法について事務局から説明をお願いいたします。

<教育指導課長 資料説明>

渡邊委員長)

意思決定の方法につきましては、豊島区教育委員会会議規則第25条に規定されております。小学校使用教科書につきましては、教科ごとに採択すべき図書の数が複数あるため、

記名投票により行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員全員了承)

渡邊委員長)

御異論ありませんので、そのようにさせていただきます。

それでは、各委員の皆様は報告を受け、審議を経た後、記名投票により採択を行います。

なお、その際、票が分かれ過半数を超えるものがない場合は、投票数の多いものを尊重しつつ再度審議をし、意思を決定したいと思います。

本日は過半数を超えるものがあつたかどうかのみを確認し、採択の結果につきましては8月27日の定例会で確認をしたいと思います。

選定の前に、事務局より報告等ありますか。

教育総務課長)

昨日の審議に際しましても申し上げたのですが、教育委員の皆様には、事前に教科書に目を通していただくため、区役所の教育委員会室に教科用の図書1セットを6月18日から7月10日まで展示いたしました。教育委員の皆様には、2日間から3日間にわたって事前にお目通しをいただいているということでございます。また、同じ期間に当教育センターでも教科用図書を一般の閲覧用に供しており、延べ89名の方にご覧になっていただきました。

渡邊委員長)

ありがとうございます。

それでは、小学校の算数について説明をお願いしたいと思います。

<統括指導主事 資料説明>

渡邊委員長)

ありがとうございます。

説明のあつた教科書につきまして、約20分間の時間をとらせていただき確認したいと思います。後ほどご意見、ご質問をお願いしたいと思いますので、9時45分を目安に審議を始めたいと思います。

<委員 選定図書閲覧>

渡邊委員長)

それでは、45分になりましたので、小学校の算数についてのご意見、ご質問をお願いします。

三田教育長)

内容の議論をする前に、算数については理数離れなどと言われておりますので、区内の子どもたちの実態と学校現場の実態を確認させていただきたいです。その上で、教科書との関連性を考え、審議したいのですが、よろしいですか。

渡邊委員長)

はい。

三田教育長)

まず、区で学力調査を継続して実施していますが、中学校の数学の図形領域や数処理に関するところ、それから統計グラフ等の読み取りや表現に課題があるという分析結果がでたと記憶しています。小学校のころに基礎ができていないために、中学校1年生のデータでその部分だけ落ち込んでいるという実態があるという考えでよろしいですか。

教育指導課長)

算数の学習の状況ということで説明させていただきたいと思います。本年度実施いたしました区独自の学力調査の結果を分析してみますと、設定した目標値に達成している児童がどれぐらいいるかという達成率の項目があります。この達成率でみると、いずれも全国の平均値を大幅に上回っている状況です。具体的には、3年生では4.1ポイント、4年生では9.6ポイント、5年生では13.8ポイント、小学校6年生では10.5ポイント、それぞれ国の平均よりも上回っているという状況です。今、教育長から御指摘いただきました中学校の結果では、確かに1、2、3年生を比較しますと、国の平均値を上回っている幅が一番小さいのは中学校1年生です。ですが、それでもやはり国の平均値を上回っております。中学校1年生が6.6ポイント、中学校2年生が13.5ポイント、中学校3年生が9.1ポイント、国の平均を上回っています。ですので、経年で見ていきますと、着実に学力は向上していると考えております。

それから、小学生の学習の中で課題が見られるものをいくつか挙げますと、まず一つは掛け算、乗法や除法、割り算の意味を理解することについて、課題が見られます。機械的にドリルをこなす学習では、おおむね習熟が図れているのですが、例えば、2つのシートの混み具合を比べる式の意味について正しいものを選ぶというような設問、必要な情報を自分で選択して面積を求めるというような設問には課題があると考えています。思考力を高めていくということについては、全国的に課題がある部分ですが、本区においても同様の課題があると分析しています。

三田教育長)

重要なポイントだと思います。方法を教えて、その通りにやるということは得意ですが、何のためにこの計算をするのかを考えることには課題があると思います。調査結果を分析し、改善に向けて取組んでいて、着実に学力はついてきている、改善しつつあると捉えてもよいということですか。

教育指導課長)

そのように分析しております。

三田教育長)

わかりました。以上です。

渡邊委員長)

ありがとうございます。

それでは、ご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

嶋田委員)

教育指導課長から説明がありましたが、そういった点をどのように指導するのかという観点から教科書を見せていただきました。思考力を高めるためには、ノートをどのように作るのかということが大切になってくると思います。自分が考えた軌跡が残るものを積み上げていくということでノートの指導は低学年でも必要だと考えています。東京書籍の教科書では、32、33ページで良いノート作りをしている友達の例を出しながら、ノート作りについての解説が載っています。これは使いやすいと思いました。

それから、算数から数学へ変わることは、子どもたちの意識の面でも大きなステップです。この6年生から中学校への接続という観点からも見ましたが、どこの出版社も中学校の数学へ向けてのかけ橋的な内容が上手に組み込まれていると思います。特に、啓林館のものは、何故、算数を学ぶかについて、子ども同士が話し合っているというような内容になっていて、何故、算数が必要か、自分たちはどういうことができるのか、中学校に行ってもどのように数学へと橋渡しされるのかが書かれています。とても工夫されていておもしろいと感じました。

渡邊委員長)

他にいかがでしょうか。

千馬委員)

私は今回の改訂で新しく工夫した点を中心に教科書を見させていただいたのですが、特に注目したい出版社が3社ありました。

一つが、東京書籍です。マイノートをつくろうというページがあり、良いと思いました。嶋田委員からもあったように、子どもたちの基礎学力を高めていくためには、ノート指導は重要ですし、先生方も非常に力を入れている部分だと思います。このページは、良く工夫されているなと感じました。

それから、二つ目が、学校図書です。6年生用には中学へのかけ橋という別冊があります。豊島区は小中連携に力を入れていますし、特に国語や数学の基本的な技能学習をする教科については、スムーズに連結していく必要があります。そういう意味でもとても有効な冊子だなと感じました。

それから最後に、啓林館ですが、先生、保護者の方へというところで、学年の学習の狙いがかなり丁寧に書かれていて良いと思いました。保護者の方々に興味、関心を持っていただく上で有効ではないかと感じました。とても大事な視点だと思います。

渡邊委員長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

菅谷委員)

算数はどこかでひっかかってしまうと差がついてしまう教科だと思います。特に分数や小数でひっかかってしまう子どもたちが多いのではないでしょうか。そのような分析はしていますか。

統括指導主事)

分数の計算でつまずいている子どもたちはとても多いと感じます。私も中学校の現場で指導していましたが、3、4年生あたりから少しずつつまずき始めて、中学校の接続がうまくできないという子どもが多いです。各社とも非常に丁寧に、段階を経て書かれていると思いますし、最初の目次等を見ていただいてもわかるように、どのような既習事項を使って単元が成り立っているか、またそれを学習したことで、次の学年、また、中学校にどうつないでいくかというところが非常に詳しく書かれております。そのあたりは各社とも工夫ができていていると思います。

統括指導主事)

子どもたちが最初にひっかかってしまうものは掛け算です。掛け算の九九でつまずくと、割り算もできなくなってしまう。まず、掛け算がきちんと身につけていないと、3年生、4年生の内容に進むことができなくなってしまう。掛け算の九九は、現場でも一生懸命身につけられるように学習方法を工夫しております。その次に段階として、子どもたちの学力に差がでてくるのは、10歳の壁と言われる部分で、4年生の学習ではないかと思えます。掛け算と4年生の学習内容をきちんと身につければ、5年生や6年生の学習にもついていけると思えますので、大切にしていきたい部分です。

菅谷委員)

掛け算は、まず九九です。九九は繰り返すと比較的覚えられると思うのですが、掛け算に小数点が入ってくると難しいと感じてしまうと思います。どの教科書も分数や小数のところがとても工夫されています。説明の方法も様々です。同じ答えを出すために、色々な方法で考えることができるということを丁寧に解説しています。

それから、図形を見て考える問題も上の学年にいくと課題になってくると思います。先生が教えやすいと感じる教科書、つまり使いやすい教科書があるのかなと思うのですが、選定委員の中には現場で先生をしている方がたくさんいると思うのですが、この内容では使いにくいというようなご指摘はあったのでしょうか。

統括指導主事)

調査部会からは、各社とも、とても工夫しているというご意見をいただいています。現行の教科書も特に何か課題があるという話はうかがっていないので、それぞれの教科書、非常に細かく先生方にも見ていただきましたけども、それぞれ特徴があって、本当に今回の教科書はどの社もよくできているというお話はいただいております。

教育指導課長)

選定委員の先生方から、現行使っている教科書は、長年使用しているということもあってなじみがあるというご意見をいただいています。また、基本的な教科書のつくりは各社似ておりますし、内容について特段ここが気になるという話は特に出していませんでした。各学校で指導計画も既に作成していますが、その話の中でも、現行の教科書を十二分に活用しているというご意見がありました。

菅谷委員)

東京書籍の内容も非常にわかりやすいですが、他の出版社もそれぞれが工夫しており、わかりやすいと思いました。

渡邊委員長)

よろしいですか。他に何かありますか。

三田教育長)

いくつかの視点で見させていただいたのですが、各社とも非常に工夫されていて、甲乙つけがたいです。それでも絞り込むのであれば、日本は昔、算数や数学にとっても強く、科学技術の発展もそのおかげだと思いますが、ここ数年はそういった力が弱くなっているという視点から考えました。現行の東京書籍のものは、数について考えるという場面を想定しやすいような配列になっています。数について学んだ上で、数詞、つまり1、2、3と数を表記する内容、その後に加法とか足し算という内容に入ります。そういった体験をする学習が幼児期に非常に薄くなっています。数についての体験をたくさん積んでいると、絵を見て数について考えて、そこから算数のおもしろさや算数の考え方とか、身近な算数に気付き、その実感が算数を好きになる入り口だと思います。入門期の内容を丁寧にさせていただきたいのです。絵が大きく内容が薄いという傾向のものもありますし、教育出版は、説明の場面は多くとっていますが、内容は2ページくらいで、すぐに数詞に入っています。各社でそういったところに差があるなと感じました。

二つ目に、先程、掛け算の話がでていましたが、割り算で苦手意識を持つ子どもが多いです。それは何故かを考えたのですが、現行の東京書籍は、68ページで、最初から割り算という考えを示すのではなく、場面がたつぷりと用意されています。これは教科書の編集に一貫して言えることだと思いますが、一つの単元に入るときに、単元で形成していかなければいけない数的な概念を最初に掘り起こして、導入に入るということが、子どもたちに何のために勉強するのかということをお知らせして、それが力になっていくと思います。そういう視点では、教育出版もブロックを使って概念を説明しています。他の会社でも見られます。私は、導入期にたくさんの数的な体験を大事にしてもらいたいと思いました。

三つ目に、6年生の教科書の比較ですが、子どもたちが難しいと感じる一つの例として、比例と反比例という項目があります。これは、中学校に行くとき関数につながっていきますし、連続数をどう理解していくかという面でとても大事です。東京書籍では、数表の書き方やノートの書き方についても全部この単元が連動していて、体系的に書かれているなどという点で好感が持てる内容でした。

それから、一つ質問なのですが、大日本図書は、全ての学年に正誤表が入っています。教科書が子どもたちに配られるときには、直っているのでしょうか。

教育指導課長)

訂正をしたものを供給するという通知が来ておりますので、直ったものが子どもたちの手に届きます。

三田教育長)

全ての会社がそうなのですか。

教育指導課長)

私どものほうで把握しているのは、大日本図書だけでございます。

三田教育長)

わかりました。

渡邊委員長)

他にご意見、ご質問はありますか。

なければ、私の意見ですが、算数は考える過程が大事だと思います。各社ともにノートの指導を工夫されていますが、5年生を基軸に考えると、図形のノートのとり方と計算式のとり方があって、図形のノートの取り方は子どもにとって難しいのかなと感じます。図形のノートの取り方を掲載しているものは、子どもたちの理解を図るのに大変有効ではないかと思いました。各社ともきれいなノートの取り方を紹介していますが、ノートの訂正方法を紹介している出版社が2社あります。何故そうなるかを考える過程が重要だと言いましたが、考える過程を重要視すると結果的に綺麗なノートを取るのには難しいと思います。どう直していくかを友達と一緒に考えるという内容は、人の意見をどのように取り入れていくかを学べますし、学習的に効果が高いと思いました。

統括指導主事)

渡邊委員長からのお話があったノート指導につきましては、自分の考えたことをきちんと残しておくというねらいから、消しゴムで消さずにそのまま残して書きを書くという指導も取り入れています。電子黒板やタブレットも入りましたので、ノート指導や板書と連動させて効果的に学習ができるように今後も努力してまいりたいと考えております。

三田教育長)

電子黒板についてですが、算数の場合、例えば図形の展開図などは、かつては実際に紙をはさみで切って展開してみて、考えていました。教材や材料の選択肢が少なく、子どもの発想が極めて枠にはめられたような感じでした。タブレット等の機器を活用して展開図を描いたときに、私も何回か授業で体験しましたが、子どもたちの非常に豊かな発想で、大胆な展開図がたくさんできました。そういったタブレットや電子黒板等の教材が、教科書をフォローするような役割を果たしているのかどうか、また、思考力の高まりにつながっているのかどうかを教育指導課で捉えていますか。

統括指導主事)

教育長がおっしゃるとおり、今、デジタル教科書も大変充実してまいりました。例えば円の面積の出し方等、順を追って見ることができたり、子どもたちの理解や思考を手助けしたりするような教材が充実してきたなと感じております。今後は、そういったデジタル教材の充実と、教員がその材をきちんと効果的に使えるように研修を充実させることが求められると考えております。

教育指導課長)

各学校でタブレットを使った学習がとても盛んに行われるようになってきております。実際に授業を拝見すると、タブレットを使わない授業のときは自分の考えをはっきり述べるができないようなお子さんも、タブレットを使うと自分の考えを発表できたりする児童が随分増えてきていると実感します。先日もある学校で、とても立派な発表をしている児童がいたので、先生に普段から勉強が得意な子なのかを尋ねると、どちらかという勉強は苦手な児童だと言っていました。電子機器を活用して、授業にも集中するようになり、子どもたちの新たな才能を引き出したりする有効なツールだと捉えています。

三田教育長)

教科書で話題を提供されても、子どもたちには能力に差があります。例えば、真つすぐ線を引けないとか、90度を測れないとか、今までは技能的に差があって統一した指導ができなかったのが、タブレットを使うとそういった躓きが解消できて、みんな一緒に指導できて授業が盛り上がりますし、考える力が育ちます。ですが、正しい線の引き方や角度の測り方も大事です。ですので、タブレットを使った授業にも対応できたり、多様な発想ができたりする仕掛けをしている教科書が良いと思います。それから、ノートの指導も考え方の違いがあったときに赤で訂正したり、自分の考えと違う発想が出てきたときに電子黒板を使って記録して子どもたちにノートとして還元してあげるとか、メモとして配ってあげるとか、人から学んだり、相互に啓発することが大切です。本区で抱えているような課題は、そういった取組みによって解決していくと思います。そういう意味で、各社とも工夫している教科書ですが、現場の先生方が実際にこの教科書を使って授業をしたときのご意見等ありましたら、それを聞いてから決めたいと思います。

教育指導課長)

学校現場からは、現行の教科書については、なじみがあって有効に活用ができているという意見を聞いております。また、電子機器ともうまく関連づけながら指導をしているとのことです。

千馬委員)

関連して、豊島区では小中連携の活動で、中学校の数学の先生が小学校で授業をする機会もあるかと思います。そういったときに、授業の方法等についてのご意見はもちろん、教科書についてのご意見はなかったですか。

教育指導課長)

教科書そのものについてのご意見は、特にありませんでした。先日も池袋中学校の地区で、中学校の先生が小学校に行ってチームティーチングを行ったという事例がありましたが、中学校の先生からは小学校におけるきめ細やかな指導や思考過程を大切にしたい指導が非常に勉強になったというご意見がありました。教科書をそのまま教えるというよりは、教科書で教えるというところに重点を置き、小中合同で丁寧に教材研究を行ったという報告がありました。

渡邊委員長)

ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

千馬委員)

はい。

渡邊委員長)

では、以上をもちまして審議を一応終わらせていただきまして、これまでの内容を踏まえた上で投票に移らせていただきたいと思います。

皆さん、お手元の投票用紙にご記入をお願いします。

<委員投票、確認>

渡邊委員長)

ただいま皆様にご確認いただきましたとおり、過半数を超えるものがありましたので、算数についての審議はこれもちまして終了とさせていただきます。ありがとうございます。

続きまして、小学校、家庭について説明をお願いします。

<統括指導主事 資料説明>

渡邊委員長)

説明いただきました教科書につきまして、これから約10分間のお時間をいただき、皆さんにご覧いただいた後、ご意見とご質問をお願いしたいと思います。41分に再開します。

<委員 選定図書閲覧>

渡邊委員長)

それでは、時間になりましたので、小学校、家庭についてのご意見、ご質問をお願いしたいと思います。

嶋田委員)

2社ですので、比較するのが割合と楽でしたが、私は衣食住のいくつかの観点で比較しました。

一つは、日本の伝統的な文化をどのように家庭科の中で取り入れて、子どもたちに伝えているのかという観点です。両方ともおみそを使った料理の紹介がありますが、開隆堂のほうは御節料理についての説明があって、土地の産物との兼ね合いは社会科の学習ともつながりますし、なぜ御節ができてきたのかという内容もその土地に生きるということを学ぶことができます。まさに家庭科の本質にかかわるようなことが教えられるのではないかと思います。おもしろいと思って拝見しました。

二つ目に、衣服の項目です。東京書籍には、涼しく過ごすための工夫ということで、甚平と浴衣の写真が載っていました。最近の子どもたちは、夏休みにお祭りには行きますが、そのときに浴衣をきちんと着られない子どもたちが増えているように思います。左右どち

らを前にして着るのかという部分は、他人から見ても目立ちます。小学生だと着せてもらうことのほうが多いのかもしれませんが、浴衣や甚平が湿気の多い夏の中でどのような役割を果たしてきたのか、それを着るといことはどういうことかを考えさせることができると思いますし、学習に取り入れていただきたいところだと思います。

三つ目に、消費生活の項目で、東京書籍は数ページにわたってお小遣い帳のつけ方を紹介しています。お金をどう扱うかを学べるとと思いますし、評価したいと思いました。

四つ目に、東京書籍の裏表紙に持続可能な社会へ向けてという内容が載っています。小学生のうちから分かっているほしい内容ですし、環境教育や自分たちの消費生活にも関わることであります。とても大切なことだと思います。以上です。

渡邊委員長)

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

菅谷委員)

家庭科は、日常生活の身の回りのことが自分でできるようになるというのが目標だと思いますが、その家庭の家族との絆ということも非常に大事だと思います。そういった観点から、東京書籍は、108ページで「あなたは家庭や地域の宝物」という内容があります。家族の一員としての位置づけ、そういったものが大事なのではないかと思います。開隆堂も「家族とほっとタイム」という同じように家族とのきずなを深める内容がありますが、東京書籍の宝物という言葉が少し魅力的だと思います。

それから、質問なのですが、学校では子どもたちが身の回りのことを自分でできるようになることを主眼に置いているのか、あるいは、家庭での自分の役割をどのように育てるのかということに主眼に置いているのでしょうか。

教育指導課長)

両方とも目標にしっかりと位置づけられております。衣食住などに関する実践的、体験的な活動を通じて日常生活に必要な基礎的な知識、技能を身につけるといことは大きな柱です。あわせて、大事な柱として、家庭生活を大切にす心情を育む、そして家族の一員として生活をよりよくしようとする、そういう態度を授けるという大きな二本柱が目標として位置づけられておりますので、ともに非常に大事な学習内容です。

菅谷委員)

わかりました。ありがとうございます。

千馬委員)

2社とも子どもの興味、関心を高める内容になっていて、本当に甲乙つけがたい教科書であるとまず感じました。その中でも特徴的な部分を比較しました。

東京書籍は、5年生で新しく初めて家庭科を学習することになる子どもたちに向けて、学習のスタートという意味で、東京書籍は学習過程が非常に明確になっているように感じました。具体的に言いますと、「見つめよう」「計画しよう」「活動しよう」「生活に生

かそう」というパターンごとに全て単元になっています。学習過程がきちんと位置づけられているというのが印象的でした。また、巻末の「いつも確かめよう」というところで、学習のキーワードがよくまとまっているなと思いました。特に、左手がきき手の場合の写真も載っており、おもしろい工夫をしているなと印象に残りました。

開隆堂は、安全についてのきめ細かな指摘がされているなと感じました。また、情報が豊富で、内容も盛りだくさんなのですが、一つ気になるのが、文字が小さいかなという点です。子どもたちが読むには問題ないかと思いますが、そういう点では東京書籍の方がゆとりがあるなと思いました。

渡邊委員長)

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

教育指導課長)

先程、統括指導主事から選定資料の説明をしましたが、選定委員から直接ご意見をいただいております、もしよろしければ少し紹介させていただければと思うのですが、よろしいでしょうか。

渡邊委員長)

お願いします。

教育指導課長)

両者を比べたときに、それぞれ工夫をされていてともに非常に使いやすい教科書であるということですが、構成上の工夫ということで大きな違いが二つあるというご意見でした。

まず一つは、ミシンを使った作品の作り方という部分で、開隆堂では5年生の2学期の初め、あるいは9月末あたりで学習するような構成になっていますが、東京書籍のほうは5年生の学年末あたりで学習する構成になっています。配列どおりに教科書を扱くと、同じ内容でもそれぞれ学習する時期が異なるということです。

二つ目に、開隆堂は5年生で冬の住まいについて、それから6年生で夏の住まいについて学習するという構成になっておりまして、東京書籍の場合にはどちらも6年生で学習する構成になっています。以上の内容で構成が大きく違うというご意見がありました。

渡邊委員長)

ありがとうございます。

今の内容も踏まえまして、ご意見はありますか。

三田教育長)

例えば、5年生の内容と6年生の内容を組み替えて学習するというのは可能ですか。

教育指導課長)

組みかえは可能です。

渡邊委員長)

教科書の運用方法によって変わってくるということですね。

三田教育長)

家庭科は時間数が削られている科目です。食生活の乱れが指摘されていますし、生きる力を育むという教育目標を掲げていますし、家庭科の果たす役割はとても大きいと考えています。内容も家庭科についての考え方を学習することと同時に、実際にできるようになったかどうかという技能的な部分もとても大切です。

2社を比較して、東京書籍は、各単元が終わったら自己評価できるような一覧表がついています。開隆堂は、単元ごとに、材料がそろったかとか、安全点検できたかというように単元の中でチェックしていく内容になっています。指導する側としては、子どもたちが自分の技能として身につけることが大事であると思いますが、以前、家庭科の授業中にミシンを使ってけがをした児童がいたと思います。今は家庭科の専科の先生がいる学校はほとんどありませんし、担任の先生が教えています。親元から通っている先生の中には、ほとんど毎日親にご飯を作ってもらっている先生もいると思います。当然、十分に教材研究をした上で授業をしています。子どもたちの技能と教える側の技術や準備等含めて、入念にチェックできるようなシステムはあったほうが良いと思いました。

それから、先程、千馬委員からお話がありましたが、東京書籍で、左ききの子どもの指導として、基本の包丁やはさみの使い方という大事な場面の写真が載っているのは、工夫しているなと感じました。

それから、東京書籍は、28、29ページに、なぜ食べるのかという内容があります。炭水化物の働きを、サーモグラフィーを使いながらこうやって熱量になるという学習がありますが、化学の学習にもなるなと思いました。稲がご飯になるとか、ご飯を炊くとかいうふうに膨らんでいくとか、透明の釜を使って分かりやすく解説されています。実証的です。それに対して、開隆堂は、チャレンジコーナーというところで、おにぎりの種類やみそを使った料理、地方による違いを紹介しています。これは、子どもたちが自分で実習して考えたレシピに基づいて、栄養士にリクエストするという提案型の学校給食につながるすることができます。自分たちの考えを取り入れてもらえたという喜びもありますし、教科内だけでなく、教材を発展させて丁寧に扱って、子どもたちの自立へつなげていくという視点ではとても有効かと思いました。いずれにしても大変工夫されていて、判断が難しいと感じました。

渡邊委員長)

家庭科は、子どもたちが生きていく力を身につけるという意味で大変重要な教科です。衣食住全てがここに集約されています。今、身の回りのことをほとんど親にしてもらうという子どもが昔より多くなっているように感じます。料理やミシンという技能を身につけるのであれば、子どもたちが自分でも学習できるように、教科書に丁寧に書かれているということが重要かと思います。そういう意味では、先程もお話が出ましたが、東宝書籍の左ききと右ききでそれぞれ包丁をどう使うのかという内容は効果的だと思いました。左ききの方も多くなっていますし、丁寧に書かれているなと感じました。ご飯を炊くとか、お

茶を入れるという基本的なことについては、理由をつけて理解できるように、両社とも丁寧にならされています。ご飯の炊き方は、炊飯器のスイッチを入れたら炊くことができず、炊飯器や窯の中はどうなっているのか、どうやって炊けるのかを知ることは、生きていく力を充実させることができると思いました。

それから、開隆堂では、防災に関する取り組みの仕方が載っています。近年、防災について見直されて、色々と整備が進んでいますが、自立した生活を送るために大変重要な視点だと感じました。学習の目当てから生かそうという項目も工夫されているなど感じました。

2社ともそれぞれの工夫があり、選ぶのが難しいですが、他にご意見がないようでしたら審議はここまでとさせていただいて、小学校の家庭については投票に入りたいと思います。よろしいですか。

(委員全員了承)

渡邊委員長)

では、お手元の投票用紙にご記入をお願いします。

<委員投票、確認>

渡邊委員長)

ただいま皆様にご確認いただきましたとおり、過半数を超えるものがありましたので、家庭科についての審議はこれもちまして終了とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、11時15分まで休憩の時間とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(休憩)

渡邊委員長)

それでは、再開いたします。

小学校の理科についての説明をお願いします。

<統括指導主事 資料説明>

渡邊委員長)

ありがとうございます。

ご説明いただきました教科書について、約20分間の時間をとります。12時ちょうどをめどに審議を開始したいと思います。よろしくお願いいたします。

<委員 選定図書閲覧>

渡邊委員長)

それでは、12時になりましたので、小学校、理科についてのご意見、ご質問をお願いします。

三田教育長)

区でも学力調査を実施していますが、理科は他の教科と比べて調査結果にばらつきがあ

るように思います。理科は実験教科でありながら、例えば、豊島区の地理的な条件で制約されてしまうものがあります。自然観察では、地方でしたらそういう自然を日常的に目にしている子どもがいる中、豊島区では自然観察に行くこと自体が大変なことです。全国版の教科書ですのでやむを得ないと思いますが、実験できないものは代替の映像で見せるとか、体験活動で追体験するとか、様々な方法があります。現行の教科書を使いながら、伸びているところと課題と思われるところにはどのようなものが挙げられますか。

教育指導課長)

区独自の学力調査の結果を見ますと、平均正答率は、小学校4年生の理科では全国で目標とされている値より11.9%上回っているという状況です。この数値は、小学校5年生は11.0%、小学校6年生は4.3%、それぞれ全国値を上回っています。これが中学校の理科では、1年生が8.9%、3年生が6.7%上回っていますが、2年生では1.3%、全国の目標値を下回っているという状況です。これを経年で見てみますと、小学校4年生、5年生あたりは比較的安定しています。小学校6年は、今年は4.3%上回りましたが、この子どもたちが5年生のときの数値を見ますと全国平均を3.5%上回っているということで、5年生の段階から全国平均との差が小さい学年ということが言えると思います。また、昨年度の中学校の2年生は全国の平均に比べて6.7%下回っているという状況でしたが、先程申しましたとおり、今年の3年生は6.7%上回っているということで、今年の3年生の代は2年生での学習をとっても頑張ったと言えると思います。今、教育長からもお話がありましたとおり、理科については国語や算数と比べて数値にばらつきが見られます。

学習内容につきましては、算数と同様に、思考力が必要となるような問題についてやや弱いという結果です。知識については良好ですが、実験や観察などの思考を伴うところに課題があり、本年度、高南小学校と池袋中学校を理数フロンティアスクールに指定しまして、理科教育、算数・数学の教育の充実に力を入れているという状況です。

三田教育長)

理科で非常に重要なのは、問題解決的な学習や体験的な活動だと思います。実験はその典型だと思うのですが、実際の授業でそういう問題解決学習や体験的学習がどの程度取り入れられているのか、わかる範囲で教えていただきたいです。

統括指導主事)

実験では、各学年でポイントとなるものがあります。例えば、小学校3年生の場合、実験する際に必ず比較をします。乾電池を使って実験するときに、直列つなぎと並列つなぎを比較して、豆電球が明るくなるのかどちらなのかを学習します。それから、4年生は関係づけがポイントとなります。例えば、空気と水ですが、物の状態と温度を関係づけて捉えられているかどうかです。5年生では、振り子の重さや長さといった条件に着目して実験をして、予想を立てて実験をしているかという条件制御で、6年生では、物が燃えるときにどのように燃えているのか、もしかしたら空気中の酸素を使って燃えているのではな

いかという推察をポイントにして実験を行います。そういったポイントを指導者が意識して指導していくことが重要であるということ、これは区小研の理科部でも校内研でも大事にするように指導していますので、各学校で問題解決的な力を身につけさせることに重点を置いていると考えています。

教育指導課長)

もう1点つけ加えさせていただきますと、先程、理数フロンティアスクールのお話をさせていただきましたが、それぞれの学校の中心となる先生には、毎年、理科実技研修を悉皆で実施しています。各校の代表の先生、あるいは新規採用教諭や若手の先生に集まっただいて、実際に理科室でどのように実験を行うかという研修です。タブレットを活用するような内容も含めておりますし、実験については、ここ数年で着実に実施率が上がっていますし、先生方の指導力も高まってきていると認識をしています。

三田教育長)

わかりました。本区の理科教育の方向性は、学習指導要領の方向性と機を一にしているとともに、子どもたちの実態を反映させていると思いますので、この辺を踏まえて議論をしたいと思います。ありがとうございました。

渡邊委員長)

では、ご意見、ご質問をお願いします。

菅谷委員)

豊島区では、自然観察をすることが現実的に難しいと思うのですが、自然観察として行われていることはどのようなものがありますか。ご説明にあったメダカの生育や植物の発育が中心ですか。

統括指導主事)

メダカの育成等もそうですが、本区で特徴的なのは、サンシャインシティのプラネタリウムを教育用プログラムとして、4年生で学習しています。夜空を見上げても豊島区から星空を見ることは難しいのですが、サンシャインシティの御協力をいただきまして、一般用のプログラムではなく、教育用のプログラムに差しかえていただき、特別に勉強させていただいています。

菅谷委員)

子どもたちは、実験や観察を通じて考え方を学びます。何かを説明するにしても、知識を持っているということと考え方を知っているということが基本になると思います。そういう意味で、教科書の内容を見ると、見つけよう、調べよう、まとめよう、というように非常に計画的にまとめられていて、どの教科書も非常によくできていると思います。考え方は、自然科学だけでなく様々なことにつながっています。何らかの問題があったときには、まずはその課題は何なのか発見をするということが大切です。何事についても、問題はないかという視点で物を見ていくというのは大切であり、自然科学はそれがわかりやすく、学習しやすいと思います。そういう意味で、理科は思考過程を訓練するためにも非常

に重要な科目だと思えます。

どの教科書も上手くできていると思うのですが、例えば、振り子などの物理的な実験について、この教科書に載っている実験のほとんどが実際に行われているのですか。

統括指導主事)

その件については選定委員会のほうでも報告をいただきました。先程、見ていただきました振り子の実験ですが、フックを使ったおもりが載っています。今までは、特別な重りを作っていないとできなかった実験が、フックを使って、理科室にあるものを使って実験ができるようになって、現場としてはとてもありがたいという報告でした。こういった実験や観察の道具につきましては、各学校の理科室等々できちんと準備ができているという状況です。

菅谷委員)

わかりました。

実験のやり方は、グループや個人での実験があると思いますが、どのように行っていますか。

統括指導主事)

グループでの実験を大事にしていますし、ほとんどの実験をグループで実施しています。大体は4人グループですが、実験器具が少ない場合などは6人で実施するなど、内容や実験器具の状況によって人数が多少変わります。

菅谷委員)

実験は教科書に沿って行いますが、最初に課題を見つける中で、みんなで予想して仮説をつくると思えます。子どもによっては、我々が考えつかないような仮説が出てくるといふようなこともあるのでしょうか。新しい考え方というのは、教育的にとってもおもしろいと思うのですが、教科書があると答えのようなものがわかってしまって、そういったおもしろい発想がでてこないのではないかとも思いますし、全てが教科書に沿って行われるというのは少し問題があると感じています。

統括指導主事)

委員おっしゃるとおり、とても大事な部分です。そこで、今、現場では、教科書での指導とノートの指導を大切に指導しています。各校それぞれがノートのまとめ方を紹介していますが、まず、問題や課題を書き、それに対する自分の予想を書きます。さらに理想としては、その自分の予想したものをどのように実験すればよいのかを書いて考えさせます。この計画をととても大事にしており、それぞれのグループでそれぞれの実験が行われるということが理想のパターンだと考えています。もちろん、全て学級でこの方法を実現できるかというとまだまだ課題も多いです。ですが、各学校では、ノートに自分の考えを書いて、どうやって実験を行えばよいのかを考えて、最終的には実験をした結果をまとめるといふノートの指導に力を入れていると認識しています。

菅谷委員)

確かに学年や学級では難しい点があると思いますが、教科書は思考過程をまとめるという意味で、目的を実現するためには一番良いという方法を示しています。一番合理的な方法や考え方を勉強するのは良いことですが、子どもの発想を生かせるような授業をお願いしたいと思います。

どの教科書も内容的には、振り子、てこ、電気などの実験についてよく書かれていると思います。以上です。

渡邊委員長)

ありがとうございます。

他にいかがですか。

嶋田委員)

私は2点の観点から比較検討させていただきました。

一つは、A版かB版かという紙面づくりをどのようにしているかという点です。理科だと物化生地と分野が分かれていて、得意な分野、好きな分野、苦手な分野は様々だと思います。教えなければいけない領域や分野が増えている中で、今自分は何をしているのかが子どもにわかりやすいほうが、次のステップにつながるのではないかと思います。そういう意味では、学校図書は旧来のB5サイズの横の幅のところを上手に使っていて、大切なキーワードをそこに出して、わかりやすいですし、子どもたちの学習を進める一つの手だてだと思いますし、評価しました。

それから、大地という単元を比べてみたのですが、防災の教育にどうつなげるかという点を各社とも工夫していると感じました。例えば、啓林館や学校図書などは、ハザードマップの考え方まで踏み込んでいて、理科で学習したことを実際に自分たちの生活に役立てられるような手だてがとられています。ここも評価したいと思います。

千馬委員)

5社とも問題解決学習を深めるということで、それぞれが新しい工夫をしていると感じました。まず、写真資料が非常に充実しているという点です。毎年鮮明になっているとは思いますが、これだけリアルな情報が得られると、児童生徒にも非常に貴重な資料になると思います。それから、実験に関する安全性について、特に注意とか危険という文言で、どの会社も非常に気を使っていると感じました。実験は、子どもたちにけがをさせたくないというのがありますが、おもしろさを知ってもらいたいという視点もとても大切で、そのあたりのバランスも上手に精査されているという感じを受けました。

これらの点を踏まえて、児童の興味、関心を高めるユニークさという視点から、まず、啓林館は、5、6年生用の地域資料集があって、とてもおもしろいですし、高学年の授業では有効に使えると思いました。それから、これは他にも取り上げている会社がありましたが、理科につながる算数の窓というページがあって、算数との関連を取り上げています。最終学年である6年生では、中学生になるためにその辺りのまとめができると思いました。

次に、東京書籍では、教科書の導入のところで、各学年でどんな不思議と出会うのかと

いうページがあります。子どもが興味を持つような導入だということで、各学年の学習の狙いが明確になるのではないかと感じました。また、学習過程が問題、予想、観察、実験、まとめと、すっきりしている点も見やすいと感じます。

最後に、学校図書ですが、メダカの産卵の写真など、特に鮮明だと思いました。非常にわかりやすく、学習をする上では非常に有効であると思います。それから、考えよう、調べようというまとめのページは、非常に良いという気がいたしました。教員がまとめていく上でも非常に有効なまとめになると感じました。

各社の以上の点を判断材料にさせていただきたいと思います。

三田教育長)

昨年、元東京大学のロケット研究所の的川博士に直接お話しを伺う機会がありました。的川氏は、世界的にも先進的な科学技術に触れられている方ですが、学者を志した動機を伺いましたら、小学校の4年生から6年生くらいのときに自分が抱いていた自然への夢が、実際に花開いたのだらうと、自分を振り返っておっしゃっていました。問題解決的な学習や体験学習のできるという面でも重要な教科ですが、小学校の理科教育は将来の選択を左右するという意味でもとても大事だと思っています。

生活科から理科へとどうつなげていくかという接続の問題について考えました。

例えば、学校図書では、生活科の中で気付きを大事にして、自然の事象に対して子どもたちが気付くという学習をします。そして、小学校では、最初から自然について触れています。接続が上手くできていると思いました。また、本区にも桜という自然があり、先日もカメラのコンテストで優秀な成績を収めた子どもがいましたが、問題解決学習は興味や関心を持つことから始まります。東京書籍では、不思議との出会いというのを大事にしているという話がありましたが、そういった気づきを大切にすることで、その問題や課題を考える力が身につくと思います。気づきに重点をおいた活動をさせて、それから観察をしたりして課題を考えて、解決に挑戦しようということで実験や体験活動をするという流れができている出版社と、単元名があつてすぐに調べようという活動に入る出版社があり、問題解決学習につなげるという点ではこの流れの違いは大きいと思いました。

それから、生活科では、子どもたちが気づいたことをポートフォリオにまとめたりする活動をしています。それを時系列に並べていくと、どのような変化をしたのかということが学習でき、これが科学的な思考につながっていくと思います。学校図書は、最初ポートフォリオが各単元や学習活動毎にあります。132ページには、ノートにどうやって記録していくかということが、丁寧に書かれています。生活科と理科と接続をきちんとし、次の4年生に移ることができるので良いと思いました。東京書籍もポートフォリオを非常に丁寧に扱っていて、148、149ページでは、ノートの書き方をまとめています。他の会社でも同様の内容がありますが、振り返りがメインのように感じました。ポートフォリオやノートで、どのように自分の考え方が変容していったのかを把握することはとても重要です。最初の気づきがあつて、発展学習の中で柔軟に考え方が変わって、そ

ういう学習の中で科学的思考は成長するものだと思います。例えば、西洋タンポポと関東タンポポの違いが説明文で書かれていて、それを実際に観察したらどうなのかというときに、子どもたちは柔軟な発想でたくさんのことを考え付きます。ノートの魅力はその発想を記録できる点にあって、子どもの思考の多様性を引き出す大切なものです。

最後に、先程、サンシャインシティのプラネタリウムでの学習の話がありましたが、これは劇的な内容になっています。例えば、星空の観察は、6年生で立科林間学校に行って、天気がよければ宿のオーナーが持っている望遠鏡を貸してくれたりします。プラネタリウムは、綺麗だとか、こんなにもたくさんの星があるのかという感動があり、豊島区の子どもたちにとっては貴重な機会ですが、実天観測北極星の見つけ方など、実際に空で探すという方法でないといけないこともあると思います。植物や昆虫についても、教科書の内容はあくまでも図鑑的な理解です。季節ごとに見え方は違ってきますし、そういうことに気付いていけるように教科書を生かしていくことが大事だと思います。教科書を選ぶ上で、そういった学習につながるように、教科書を生かすということを各学校にご指導いただきたいと思います。

渡邊委員長)

最後に私の意見ですが、実験や観察という教室だけでは終わらないような体験型の授業ですし、各社とも授業が終わった後でも内容が振り返れるような教科書のつくりになっていて大変甲乙つけがたい感じでした。

星の話が出たので一つ興味深いと感じたことは、大日本書籍で、ビニールシートで星空を作って、実際に子どもたちにかぶせて星空を感じさせています。ビニールシートは動かせませんし、プラネタリウムで星座を見ても、現実では結びつかないとかという点では非常に興味深い示し方だと思いました。

では、他にご意見がないようですので、ただいまをもちまして審議は終わりにさせていただきます、投票に入りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(委員全員了承)

渡邊委員長)

では、委員の皆さん、お手元の投票用紙にご記入ください。

<委員投票、確認>

渡邊委員長)

皆様に御確認いただきましたとおり、過半数を超えるものがありましたので、理科についての審議はこれをもちまして終了とさせていただきます。ありがとうございました。

以上をもちまして午前中の審議及び採択を終わらせていただきます。採択結果の確認は、先ほど申し上げましたとおり、8月27日の定例会において行いたいと思います。

なお、本日午後1時30分より小学校の体育と図画工作の2教科用図書採択を行いますので、それまでは休憩に入らせていただきます。

(休憩)

渡邊委員長)

それでは時間となりましたので、ただいまより第8回教育委員会臨時会を再開させていただきます。

事務局より連絡等がありますか。

教育総務課長)

傍聴の皆様申し上げます。午前中は審議にご協力いただきありがとうございました。午後も引き続き注意事項を遵守していただくようお願い申し上げます。以上でございます。渡邊委員長)

ありがとうございます。それでは臨時会を再開いたします。

小学校、体育についてのご説明をお願いします。

<教育指導課長 資料説明>

渡邊委員長)

ありがとうございます。

ただいま説明いただきました教科書につきまして、約15分の時間をとらせていただいて皆さまにご覧いただきます。後ほどご意見、ご質問をお願いいたしますので、よろしくをお願いいたします。

<委員 選定図書閲覧>

渡邊委員長)

それでは、15分経過いたしましたので、小学校の体育についてのご意見、ご質問をお願いいたします。

三田教育長)

質問です。豊島区の「豊島の子7ヶ条」の中に、早寝早起き朝ごはんがあります。これは、女子栄養大学の学長が子どもたちの基本的生活習慣の問題に関して直接提案したもので、それが全国的な標語になって、我々もその実践に向けて取り組んでおります。がんの教育は豊島区において非常に前進しましたが、それについても基礎的な生活習慣がやはり大事なのです。当初、私たちが教育ビジョンをつくる時に、失われた3つの習慣ということで、読書習慣や学習習慣、基本的生活習慣を挙げ、子どもたちに対して早寝早起き朝ごはんが生きる力や学習の基になるということをやってきました。教科書それぞれに、基本的生活習慣の見解があると思いますが、選定委員会において、どんな特徴があるのか上がっていたら伺いたいと思います。

教育指導課長)

規則正しい生活につきまして、各社とも課題解決的な学習ということで取り組んでいるようです。ただ単に知識をつけるという内容ではなく、自分の生活と照らし合わせて、ワークシート形式になっている箇所に自分の生活リズムを直接書き込んで、その書き込んだものを見返し、振り返ったり、あるいは友達同士で情報交換をしながら学びを深めたりというものがございます。また、現在の指導計画の中では、3年生時に規則正しい生活とい

うものがございまして、この中では、自分の生活の目当てを振り返ることや、元気な日の生活と元気が出ない日の生活を比べて、どういうときに元気がなくなるのだろうか、子どもたちからいろいろな意見を引き出させて学んでいくといった内容の学習を進めているところでございます。

渡邊委員長)

ありがとうございます。

嶋田委員)

実際にこれを教えたことがないので、判断が難しいですが、先生たちがどのようにこれを扱うのかということによると思いました。比較検討をするために、私は2つの視点で見させていただきました。

一つは心の問題をどのように扱っているかということです。どこの出版社も5、6年生においては、多くのページを使っていましたが、最初のページからいろいろと書き込みがある中で、例えば大日本図書は、絵だけで構成されていて書き込みが無く、一つの絵を見て考えることを討議させるといった、子どもたち自身に考えさせるような習慣を身に付けさせているのではないかと思いました。

それから、学研の教科書には、子どもたちが皆に見守られているという視点が一番強く見られると感じました。例えば表紙の裏に、私たちと一緒に学びましょうということで、スクールカウンセラーや救急救命士などが載っていたり、後ろの方のページには窓口という形で、心や体の問題をいろいろなところに相談できるということが載っていたりして良いと思いつながりながら見ていました。

もう一つは思春期の扱いについてです。各社、3、4年生のところで子どもたちの体の大きさに即した実写に近いような絵で示すのか、あるいはもう少しデフォルメして、それほど羞恥心無く見られるように配慮しているかということに分かれると思って拝見いたしました。以上です。

渡邊委員長)

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

菅谷委員)

ここに健康の定義みたいなものが書かれています。健康は、実際に健康なときはあまり気がつきません。体調が悪化したとき、健康は大事だということに気がつきます。つまり、普段気がつかないことに気がついてもらういい教材だと思うのです。普段気がつかないようなことが起こったときに、どんな悪いことが起こるかという例を挙げる教材としては非常にわかりやすいと思います。普段病気にかかっていないと、病気になったときに初めて健康の有難みがわかるという視点から、健康を考えている点がわかりやすいと思います。健康というものについて、子どもたちがどのように考えるのかということは、恐らく1、2年の生活の授業の中でやってきていると思います。中には理科の項目もあって、いろいろなところでそれぞれやっているのですけれども、使い方によっては、普段気がつかない

ことを気づかせるといういい教材だと思っています。

どの教科書もよく書いてあって、学研の教科書は写真もなかなかきれいですし、カットも良いと思います。それにパソコンがもたらす体への影響なども書かれていました。

あとは、全体的にわかりやすい内容ですが、通して見ると、少し難しい内容だと思いました。例えば、学校伝染病とありますが、小学校の高学年あたりだとあまりそれは入ってきていません。あれは中学校でやるのですか。

教育指導課長)

こちらの保健の学習の中では、6年生の単元で病原体と病気というものがございまして、その中でインフルエンザや食中毒といったものを取り扱っておりますが、学校伝染病そのものについては取り扱ってはいないのです。

菅谷委員)

わかりました。どれもなかなかよくできていると思います。

渡邊委員長)

ありがとうございます。

千馬委員)

私は、1点目に自分の体に目を向けさせていること、2点目に心身の健康、3点目に自己の成長、そして4点目に安全という4点を踏まえて、すべて読みました。そこで2つ、私なりに感じるがありました。1つめは、アンケート形式を重視している文教社の内容がおもしろいと感じました。それから、同じく文教社ですが、5、6年生の14、15ページの、学習活動の流れがわかるようにやってみよう、話し合ってみよう、考えてみようというところも指導上かなり有効だと感じました。

学研では、工夫、活用のコーナーというのがかなり重視されているようで、これは生活科との関連も含めて非常に有効だと感じました。体育の場合、自分でそれを活かして生きていくという、生きる力につながっていくような手だてになると思いました。それから、もっと知りたい、調べたいコーナーというのがありますが、これもおもしろいと感じました。

以上の点が印象に残ったので、それを採択のポイントにしたいと思います。以上です。

渡邊委員長)

ありがとうございます。

三田教育長)

各社、それぞれ非常に工夫されていて、本区の取り組みと軌を一にするものがたくさんあって良いと思いながら見させていただきました。大日本図書の、5、6年生の47ページに保健活動というのは地域でやるというのがあります。これは視点が割と明確になっていると思いました。東日本大震災で大勢の人が亡くなったときに、教育の中で死と直面するということはなかなか教えるににくいという部分がありますが、生命尊重とは死というものをどう見つめるかという生き方につながるもので、人間の終焉としての死をどのように

見つめていくのかという手法としては、人を弔い、またご先祖様をずっと敬って感謝していくという日本の伝統的な文化があるわけです。そういうことにきちんと正対している教材が展開されているという点で、なかなか考えさせられると思いました。

それから、東京書籍についてですが、東日本大震災を例に、自然災害によるけがの防止という内容になっています。具体的な事例に即しながら、避難の方法などを考えてみよう、活用して深めようというところでは、地震が起きたときの減災という視点から見ていくという展開です。さらに、感染症の予防ということで、子どもたちは学習活動の中で、インフルエンザや風疹やおたふく風邪、いろいろな感染症を経験していくわけですが、そういうものについて自分でチェックして考えていこうというような構成にしています。いずれも、自分の健康は自分で守っていくという力をつけるのに非常に有効な教材だと思いました。

文教社についてですが、5、6年生では地域の保健活動という内容が展開されていて、共助と自助の展開はこれまでもありましたが、これに公助の展開もあってはじめて、子どもたちの視点としては大事なところをきちんと表現していると思います。

それから、私たちはセーフスクールで事故やけがの予防ということを重視してやってきているわけですが、光文書院は疾病や病原体、感染症など、様々な予防策を事例として取り上げています。また、生活習慣病の予防ということで、セーフスクールの考え方にも合致していて活用しやすいと思います。

各社それぞれありますが、例えば学研の14、15ページの安全マップについてですが、やっていることは私たちの取り組みと同じであると思いました。また、23、24ページの内容も、セーフスクールで取り組んできたことと同一の視点で書かれているということです。それから、とても感心したのは、不安や悩みへの対処ということで、子どもたちの成長や思春期を迎える高学年の誰もが悩むことについて、心の健康をきちんと考えて構成されていて、他の教科書にはない展開だと思います。前回は、内容は良いものの全体として字が小さいことが難点であると指摘した記憶がありますが、今回、大判になったのでゆったりと構成されている点に好感が持てました。以上でございます。

渡邊委員長)

ありがとうございます。

千馬委員)

質問があります。今の話と関連しますが、本の大きさがB5からA4になったことについて、選定委員会においては話題になりましたか。

教育指導課長)

これについては話題になりまして、今もお話がありましたが、本のサイズと文字が大きくなったことで見やすくなったということと、資料自体の数も増えて大変見やすくなったという声がありました。

千馬委員)

わかりました。

渡邊委員長)

ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。

最後に私からです。各社ともに健康上の予防に関しては非常に詳しく書かれていると思いました。セーフスクールに関することを中心に比較しましたが、例えば学研ではいじめについてしっかりと捉えるという箇所があり、文教社では心のけがとしてとらえ、24時間いじめ相談ダイヤルや文部科学省の記載がありました。豊島区には合っていると感じました。

身体的な部分というのは多少の表現でそれぞれの解釈があるので、相互比較的になるという感じがしました。学校や地域でのけが防止というところでは、学校の様子が非常に細かく書かれています。教科書によっては、ごくごく限られた階段を上ったところや、曲がり角に気をつけましょうというような感じで、生徒たちとどこが危ないかという話をしたときに、論点がずれたり、意見が多く出過ぎたりという危険性もあります。授業としてまとまらないという感覚もありまして、集約されているほうが皆で気をつけようという予防に集中しやすいと思います。

それでは、時間もありますので、これで体育の審議は終了してよろしいでしょうか。特になければ、これから記名投票に入りたいと思いますので、先生方、お手元の投票用紙にご記入をお願いいたします。

<委員投票、確認>

渡邊委員長)

ただいま皆様にご確認いただきましたとおり、過半数を超えるものがありましたので、体育についての審議を終了いたします。ありがとうございます。

それでは続きまして、小学校、図画工作についてのご説明をお願いいたします。

<統括指導主事 資料説明>

渡邊委員長)

ありがとうございました。

それでは、2時45分まで時間をとらせていただきまして、約10分間、ただいまご説明いただきました教科書について皆さんにご覧いただきたいと思います。後ほどご意見、ご質問をお願いいたします。

<委員 選定図書閲覧>

渡邊委員長)

それでは、お時間となりましたので、小学校、図画工作についてのご意見、ご質問をお願いしたいと思います。

嶋田委員)

4社ともそれぞれユニークな材料を使い、ユニークな手法で子どもたちの表現する世界を広げてくれていると思っていて、おもしろく拝見していたのですが、例えば開隆堂では、

墨について取り扱ったページがあり、白黒の世界は、それまでのカラフルな世界と違って、いろいろ思わせる作品があるのですが、そういうものを扱っていておもしろいと思いました。

一方で、日本文教出版は新聞紙や段ボール、紐などの素材を、学校の中でしかできないようなアンサンブルとしての教育の視点から、クラス全体で取り組むような活動をしている視点が見えて、個人の作品というよりはむしろクラスで一つ大きなものをダイナミックにつくる、それは学校教育でしかできないものだろうし、ダイナミックですから、そこは評価したいと思いました。それから、日本文教出版は光っているものを上手に使っている内容があった印象を受けました。以上です。

渡邊委員長)

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

千馬委員)

それぞれ工夫を凝らしていると思いますが、開隆堂の特徴について、2つほど私は意見があります。1つは、各題材に振り返りというのがあり、自己評価を重視しているのは、大事であると思います。自己評価するという機会がなかなかない教科だけに、自己評価できる機会があってもいいと思います。2つめは、図工において大切にしたいことというのがきちんと位置づけられているというのがユニークだと思いました。

日本文教出版の特徴として、学習の目当てと活動の種類、片づけを常に位置づけている点のはっきりしていて良いと思います。材料によっては気をつけようということで、安全にも配慮しているのは大事だと思います。それから、巻末6ページにわたって材料と用具をきちんと掲載しているのが良いと感じました。それらがこちらの教科書の良さだと思います。以上です。

渡邊委員長)

ありがとうございます。

三田教育長)

私はそれぞれ違いがあってもおもしろいと思って見ていました。開隆堂の、日本の造形でおもしろいと思ったのは、中学年の18、19ページにある造形のところです。紙を様々折ったり曲げたり丸めたりしながら作品をつくっていくという事例で、ばねを使った動きを楽しもうとか、紙の弾力を生かして楽しもうなど、いろいろなものがありますが、これがきれいに作られているのです。きれいにというか、ある意味、本当に子どもがつくったのかと、誰がつくったのだろうという疑問を持ちました。それくらいきれいに作られているという印象でした。それから、37ページを見ますと、「にこにこべんとう ペランコランチ」という、これもお弁当をつくったり、ドラゴンのアイデアだったり、素材を使って楽しく作品を作っているのです。靴下や手袋、帽子などをうまく使った方法ですが、これもきれいに作られているのです。だから、これは誰が作ったのだろうという、そういう感じを受けました。

これに対して日本文教出版は、例えば絵画のところでは、5、6年生の上巻の40、41ページは、物語から広がる世界、子どもが描いたのだとみるからにわかる作品なのです。だから、先生たちがどういう切り口で指導するかということを考えると、こちらの方が、自分たちにも作れるという気持ちで取り掛かれるのではないかと思います。他にも、これはもう大人の考え方であると思いますが、51ページを見ると、家の形、家の色というところがあって、世界の町並み、日本では白川郷の合掌づくりの景観を例に挙げてありますが、色のすばらしさなどの美的な感覚は大人が子どもに感じさせてあげたいと思いますが、ここではこれらを上手に組み合わせていると思います。それから、タイトルが美的なのです。何々をしようというタイトルではなく、物語から広がる世界とか、ミラクルミラステージ、光のハーモニー、使って楽しい焼き物、まだ見ぬ世界など、イメージを膨らませてくれるような言葉を上手に使って設定しているところが他とは異なっていて良いと思いました。

日本文教出版の中学年の20、21ページに、うれしかった、あの気持ちというタイトルのところで、桜の木がありますが、子どものイメージが如実に出ていますし、また、イルカショーについては、子どもたちはこういう絵を描くのです。これがやはり中学年の発達段階であり、3年生になるとこういう絵で自分の世界を表現していくのです。いつまでも太陽が出ているような絵では困りますが、1年生、2年生はそういう絵を描きながら、平面的な美意識から立体的な美意識へ徐々に変わっていきます。子どもたちのそういった成長段階をうまく捉えてしておもしろいと思います。

それから中学年の33ページ、大好きな物語というところで、中学年の大胆さがよく表れています。たとえば「もちもちの木」や「手袋を買いに」、他にも新美南吉の作品を読んだ「スーホの白い馬」など、子どもたちが国語の授業でやったことをクロスカリキュラムとして工夫して作品が展開されている点が非常におもしろいと思いました。以上でございます。

渡邊委員長)

ありがとうございます。

菅谷委員)

教育長がおっしゃったとおり、ここに出てくる作品は誰がつくったのかと私も思いました、大人が見てもすごくうまいと思うので、これを子どもが描いたかどうかというのは少し疑問に思いますが、これらも、広い意味で芸術です。芸術というのは正解がありません。算数であれば正解がありますが、芸術はその人の感性でつくるものですから、これが正しい、ということはありません。教科書からいろいろなものをつくったり描いたりすることが非常におもしろいというのを酌み取ってもらえるような教科書になっていると思います。そういう意味ではどちらの教科書も発展的な内容がたくさんありますが、一つは自分の力と近いところを選びたいということがあると思います。

渡邊委員長)

ありがとうございます。ほかには、よろしいでしょうか。

最後に私からですが、日本文教出版は偶数ページの下の方に、使う道具というのがすべて掲載されていて、それが大変わかりやすいと思いました。先ほども話がありましたが、巻末に道具の使い方や手入れの仕方などがしっかり書いてあって、特に6年生では接着剤の適合表というものがありますが、大人でも接着剤の適合性って意外と知らないと思います。何でも瞬間接着剤でくっつけてしまえばよいというような考えがありますので、そういったところもしっかり学習できます。

それから、開隆堂の5、6年生の1枚の板を使った工作という部分のところで、積み木で組み合わせのものをつくりましょうというような題材で展開されていますが、日本文教出版ではきちんと図面をとって板の無駄を出さないよう工夫して作品をつくりましょうと展開されています。切り抜き細工だけではなくて、作品全体につながるようなこと、例えば図面をしっかり描くということは、中学校に上がって技術や家庭科を学ぶときにもすごく大事ですし、その辺の構成が両方で若干違うと感じました。

それと、開隆堂の最初の見開きのところで現代の芸術家の作品が、近代的な、あるいは伝統概念にとらわれない美の感覚という意味を込めて掲載されていると思います。一方、日本文教出版は、伝統的な美や世代を超えた共通感がある雰囲気のある芸術作品が掲載されていました。両者それぞれ大変に工夫されている感じがしました。私は以上です。

ほかにご質問等無いようでしたら、これで審議を終わらせていただいて投票に入りたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

(委員全員了承)

渡邊委員長)

それでは、小学校、図画工作についての記名投票をお願いいたします。お手元の投票用紙にご記入をお願いいたします。

<委員投票、確認>

渡邊委員長)

ただいま皆様にご確認いただきましたとおり、過半数を超えるものがありましたので、図画工作についての審議はこれをもちまして終了とさせていただきます。ありがとうございます。

本日の教科書採択は以上といたします。

(午後3時30分 閉会)